

第45回環境安全委員会 議事要旨(案)

1. 開催日時 2021年10月26日(火) 13:00~14:31
2. 開催場所 ホテルイースト21 3階 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、村山委員、森口委員(WEB)、織委員(WEB)、馬締委員、重松委員、徳永委員、干泥委員、瀧澤委員、風祭委員(WEB)、浅沼委員(環境省)切川課長補佐(WEB)、橋爪課長補佐(順不同)
4. 議事(公開)

【議題1】2021年度 東京PCB処理事業所 長期処理計画

【議題2】2021年度上期の操業状況

【議題3】PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

資料1の議題1~3に基づき JESCO より説明、質疑応答があった主な意見は以下の通り。

- 委員長 廃PCB油とリン含有PCB油の処理状況は別々に整理していることを明確にしておくこと。
- JESCO 了解しました。
- 委員 自治体、保管事業者で処理対象物の精査が行われているが、期限が迫る中でコロナの影響、心配はないのか。
- JESCO コロナの影響を昨年度から毎月、影響を受けている保管事業者数を環境省に報告している。全JESCOで74事業者に契約の遅れがあったが、現在は5社程度となり影響はほぼなくなってきている。
- 委員 対象期間内処理に向けて全国的にしっかり把握しているということで大変安心した。
- 委員 懸念されていたリン含有PCB油中のリンによる水熱酸化分解設備系統の配管閉塞はこの1年間の運転生じていないか
- JESCO 本格的に処理した去年から定期点検で確認しているが閉塞は起こっておらず、排水を含めて影響は出ていない。
- 委員 安定器の処理を北海道事業所に任せ、2024年まで続く。2022年には東京事業所の処理が終わった後、2023年、2024年は、安定器はどこにあるのか。
- JESCO 保管事業者の持っている安定器は、北海道事業所に直接運んでいるので、東京事業所に預けることはしていない。
- 委員長 掘り起こしで発見されるものがある。2022年度末の処理期限との関係をどう考えているか。
- JESCO 明確に新規登録量は不明だが、月当たり150~200台ぐらいと想定している。大阪事業所の事例では、処分期間満了年度の12月以降に通常の新規登録が1.6倍ぐらいになった。その場合、東京事業所では、来年度さらに1,000台ぐらいは増える可能性があるが、年間7,000台の処理能力が

あるので問題ないと判断している。

●委員長 計画としては来年度ゼロだが、今後、処理対象量をアップデートすると新規発見の可能性があるということの説明と理解した。約束が違うということではないということを確認した。

●委員 9ページにあるPCB廃棄物の搬入・搬出・処理の状況で（2）の二次廃棄物の搬出実績については、実績があるが、計画がない。何か計画があるのかを確認したい。

●JESCO 二次廃棄物の払い出しに関してはある程度計画はあるが、洗浄や加熱設備がトランスコンデンサー処理を中心に使用していて、設備稼働の空いているところで二次廃棄物を処理する。

●委員長 二次廃棄物の発生と処理・搬出が釣り合っている必要があるが、現在は変圧器とコンデンサーの処理が中心で計画通りいかない場合もある。

●JESCO 2022年度に向けて計画的に処理を加速して、運転廃棄物も処理していく予定である。

【議題4】トラブルの発生状況

【議題5】設備保全の状況

【議題6】2021年度上期 環境モニタリングの状況

資料1の議題4～6に基づき JESCO より説明、質疑応答があった主な意見は以下の通り。

●委員 今回、事業終了に近づく中でトラブルが上期はなかったということは大変すばらしく、皆様の努力の結果だと思う。最後までトラブルゼロを続けられるように活動を継続していただきたい。水平展開については具体的にどのようにやっていたのか。

●JESCO 例えば、他事業所で漏えいがあれば、どのような漏えいなのか、それを当事業所のプラントに照らして、類似のトラブル発生の可能性はないか、トラブルの事象の何が問題であったか、設備的なのか、人的なのか、要因に対して、当事業所に照らし合わせて改善点はないか検討している。

●JESCO トラブルが発生すると、本社のトラブル対策チーム、そこにはリスク管理の外部機関にも依頼して入っており、発生原因を分析し、各事業所へ水平展開をしている。各事業所で、どのような状況か、該当設備がないか、類似行為はないか分析して、参考にするという対応をしている。

●委員長 事業終盤でのトラブルは期限オーバーに繋がり、致命的になりかねないことを肝に銘じていただく必要がある。より一層、トラブル発生を抑えることに注力していただきたい。

●JESCO 承知しました。

●委員 非常に高温高圧で腐食が非常に苛酷な条件で、15年以上稼働しているというのは、世界で例がない。プラントを支える処理技術、メンテナンス技術、日本の水熱技術のレベルの高さを示している。最後まで頑張ってくれたとなっただけならばと思う

【議題7】作業員の安全対策への取り組み状況

【議題8】防災対策への取り組み状況

【議題9】施設見学の状況

資料1の議題7～9に基づき JESCO より説明、質疑応答があった主な意見は以下の通り。

●委員 施設見学で、2020年度、21年度は当然コロナの影響が強いというのは分かるが、それまで結構数がありましたが、だんだん減ってきて、513件が2019年、この施設見学をされる方はどういう方々なのか。例えば小中学生とか、あるいは技術者だとか、どのように分類されているのか。

●JESCO 小中学生は来ていない。帰属問題等で昨年住所が決まり、江東区、特に教育委員会に声かけしようと思った途端にコロナで駄目になってしまった。昨年2月、住民の方がバス2台で来るという話も実はあったが、コロナで中止になった。今度、江東区の教育委員会、ぜひお声がけいただければありがたいと思う。今までの見学者は保管者の方が多かった。他には東京都が行っているスーパーエコタウン事業で年に6回ほど観光バスで来てという大掛かりな見学があった。

●委員 コロナの影響でせっかく予定したのができなかったという状況。今後、教育委員会も含めて、これから子供たちにもしっかりと、こういう現実を理解していただけるような機会が設けられればいいなと思うので、よろしく願いたい。

●委員長 10月4日から受入再開後、実績はどうか。今の状況ではなかなか難しいか。

●JESCO ホームページに再開したことを掲載した。それと同時に、通常、見学者の方にお見せする東京事業所施設の処理概要のビデオ14分程度も併せて掲載した。

●委員長 コロナ禍でできることとして、積極的に活用いただきたい。

●委員 ヒヤリハットについてはすごく誤解があって、これはむしろ多く見つかった方がいい。リスクセンスを磨いていくことで、危険予知能力を高めていくために毎日意識をどう高く保つかということが肝要。慣れが出ると見つけにくくなる中で、現段階でもこれだけヒヤリハットが報告されているのは素晴らしいことだ。

コンスタントに報告が出され、体験ヒヤリがちょっとずつ減っているのは、ハード面が整備されてきているということなのかもしれない。想定ヒヤリがまだこれだけ見つけられているというのはいいと思う。

●委員長 ぜひヒヤリハットを奨励するという事は続けていただければと思う。

【議題10】低濃度 PCB 処理施設の解体撤去工事の検討状況

資料1の議題10に基づき JESCO より説明、質疑応答があった主な意見は以下の通り。

●委員長 多分、低濃度なのでリスクはあまり高くないと思うが、今度高濃度の解体撤去をやる際の課題を抽出するには非常にいいと思う。きっちり情報収集をして整理をしていただくと、高濃度を本格的に解体撤去するときに、注意しなくてはいけないということはよく分かるだろうと思う。実際に低濃度でやったときに、こういう問題が出てきたという時に、そういう情報の収集を慎重に進めていただければと思う。

●委員 今回は低濃度の施設ということで、これ自身の詳細な計画は次回の委員会で報告ということだが、高濃度も含めた東京事業所全体、あるいは全国も含めて解体撤去の全体の計画または、の撤去の計画の全体の枠組みというのはどのようになっているのか。

●JESCO 高濃度のPCB処理施設ということになりますので、工事の前に工事の実施計画というものをそれぞれの施設ごとに策定して、今回のこの環境安全委員会、あるいはほかの自治体ですと監視会議で説明することになる。既に北九州の1期施設、こちらは操業をもう終了して、解体撤去の段階に入っているのです、今、その本格的な工事に入る前に実施計画の策定中という状況であ

る。そうした北九州1期の経験等を東京、あるいはほかの施設の解体撤去にも生かしていきたいと考えている。

●委員 北九州の例が恐らく参考になると思うが、解体に関わる工期、期間はどの程度と見込めばよいか。

●JESCO 北九州の例ですが、操業が終わってから大体7年ぐらいです。ただ、これは施設によってPCBの付着状況、施設の大きさ、立地状況は違うので、一概当てはまるわけではないが、北九州1期の場合はそういう状況で、ほかの施設も今後具体的な検討に入っていく状況である。

●委員 今、作業の方の人数は、添付資料には127人でしたか、これはあまり今までと変わっていないのか、大分減少してきたのか。

●JESCO 運転している人数につきましては変わっている。162名が運転委託をお願いしている人数で、今の体制は変わっている。

●委員 このポリ塩化ビフェニルの処理工場でJESCO、国の機関の工場が来年から解体に向かっていくということだが、PCBは今後もう世の中で全然発生しないのか。工場をやめたら、それはどうなるのか。

●委員長 基本的には、国際的にもう製造使用を禁止されている。廃棄物処理などの過程でゴミを燃やすときのダイオキシンみたいにできてしまうのはあるが非意図的に生成してしまうものはあるが。製造することは国際的にもやめましょうという取り決めになっている。製造は「つくられることは基本的にないと考えている。

●委員長 処理工場自体でつくるということない。法律上決められていて、国際的に条約ができていて、日本も加入しているので、製造はない。ただ、製造工程や、ゴミを燃やす過程でどうしてもできてしまうものはあり得る。そういうものは適切に処理をして外に出さないようにしているという状況で管理している。

ただ、実際には環境中に出てしまったのは、なかなかなくなるので、そう簡単には環境中から全くゼロにはできない。最近はまだほとんど検出されることはないが、そういう状況にある。PCBを製造することは、国際的にも取り決めをしているので、起こらないだろうと考えている。